

薬学府

I	教育の水準	教育 23-2
II	質の向上度	教育 23-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 平成 27 年度にシステム創薬リサーチセンター（グリーンファルマ研究所）を設置し、社会ニーズの高い痛み、がん、循環器疾患及び廃棄物を少なくさせる合成法（グリーンケミストリー）等の教育研究を実施している。
- 平成 23 年度から実施している学内の大学改革活性化制度により、新たに教員（教授 4 名、准教授 2 名、助教 2 名）を採用したほか、平成 27 年度にテニユアトラック制度により 2 名の助教を任期付教員として採用し、教育研究指導体制を強化している。
- 国際社会で活躍できる人材を育成するため、学内の教育の質向上支援プログラムに採択された取組として、一部講義及び実習の英語化、外国人講師による講義や討論等の実施、教員の英語による講義能力の向上のためのセミナーへの参加、学生の短期海外留学及び海外学会での発表の単位化等を行い、英語の教育環境を整えている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 少人数授業や対話・討論型授業、事例研究型授業、フィールド型授業等の取組により、課題探求、問題解決能力の向上、高度な研究への参画、臨床研究の修得、国際社会への研究内容の発信力の強化を推進している。
- 学生の専門性に応じ、4 コース（医薬化学系、物理薬学系、生物薬学系及び医療薬学系）から履修科目を選択し、各系に分かれた演習を実施しているほか、「薬学総論Ⅲ」において、学生が主体となって企業フォーラムの企画と運営を行い、企画・運営に必要な能力を養うなど、アクティブ・ラーニングに取り組んでいる。
- 海外から招へいた研究者との英語による討論を行うなど、学生の実践的な会話力の育成及び研究意欲の向上に取り組んでいる。

以上の状況等及び薬学府の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成23年度から平成27年度におけるインパクトファクター（IF）が5以上の国際誌への学術論文の発表件数は、63件となっている。
- 平成25年度から平成27年度における学会や各種コンペティションでの受賞件数は、平均26件となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成22年度から平成26年度における就職率は、修士課程は95.3%、博士後期課程は89.3%となっている。
- 就職先、進学先等の関係者へのアンケート結果では、専門分野の知識や技術、プレゼンテーション能力、研究に対する積極性について、90%以上が「極めて優れている」又は「優れている」と回答している。

以上の状況等及び薬学府の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

II 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 高い質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 教育研究環境を充実させるため、システム創薬リサーチセンター（グリーンファルマ研究所）を設置し、社会の要望が高い疾患に対する創薬研究を行い、最先端の創薬教育に活かしている。
- 英語による講義能力向上のための教員の英語研修プログラムへの派遣のほか、学生の短期海外留学や海外学会発表に基づく単位認定、海外から招へいした教員による英語の講義等により、英語の教育環境を整えている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 23 年度から平成 27 年度における IF が 5 以上の国際誌への論文の発表件数は 63 件で、そのうち IF が 10 以上の国際誌への発表件数は 16 件となっている。また、平成 25 年度から平成 27 年度における学会や各種コンペティションでの受賞件数は 78 件となっている。
- 平成 22 年度から平成 26 年度の日本学術振興会（JSPS）特別研究員の採用者数は、特別研究員（DC 1）は 13 名、特別研究員（DC 2）は 14 名となっている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

2. 注目すべき質の向上

- 平成 23 年度から平成 27 年度における IF が 5 以上の国際誌への学術論文の発表件数は 63 件で、そのうち IF が 10 以上の国際誌への発表件数は 16 件となっている。
- 平成 22 年度から平成 26 年度の JSPS 特別研究員の採用者数は、特別研究員（DC 1）は 13 名、特別研究員（DC 2）は 14 名となっている。